

松江歴史館 NEWS

MATSU REKI

二〇二五年
冬号

10

和田悠成作《小泉八雲夫妻》(当館蔵)



小泉セツと八雲が 駆け抜けた時代。

CONTENTS

2-3 展覧会みどころ紹介

企画展

連続テレビ小説
「ばけばけ」の世界と
小泉セツと八雲の時代

企画展

意東焼 —松江で作られた幻の磁器—

4 これからのスポット展示・ミニ展示

5 コラム「雲陽秘事記あらかると」 第9回(名誉館長 藤岡大拙)

6 松江おもしろ談義ダイジェスト

7 歴史スポットめぐり 朝日家長屋 INFORMATION 松江歴史館15周年記念

8 地域ゆかりの資料紹介 —城北編—

令和7年度
冬季
企画展

連続テレビ小説 「ばけばけ」の世界と 小泉セツと八雲の時代

本展では連続テレビ小説「ばけばけ」の放送を機に、ドラマのモデルとなった小泉セツと夫の八雲が生きた明治時代の松江を取り上げます。ドラマは実際の人物や出来事を参考にしたフィクションであるため、ドラマと比較しながら人物や出来事を歴史資料から紹介します。また、ドラマのセットの再現や衣装と小道具等を展示します。明治時代の松江で実際に起こった出来事を知ります。「ばけばけ」の世界の奥深さを体感してください。



粹
な牛乳店の
法被の被

明治6年(1873)に松江の母衣町で開業した牛乳店「鴻生舎」の法被です。鴻生舎は松江に滞在していた小泉八雲に牛乳を配達していました。ドラマで司のすけ之介が着ている法被の参考となっています。鴻生舎の法被(個人蔵)



松江の猪目は
サムライの印

令和7年(2025) 12/26 金
令和8年(2026) 3/29 日

会場: 松江歴史館 企画展示室 主催: 松江歴史館

休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12月29日～1月1日)
開館時間: 9:00～17:00(観覧受付は16:30まで)
観覧料: 大人900円(720円)、松江市民450円
小・中学生450円(360円)、松江市民230円
基本展示とのセット券の料金は大人1,250円(1,000円)、小・中学生630円(500円)

松江藩士が使用した兜の前面には、松江藩のそろいの印である「猪目」△が付いています。ドラマで勘右衛門(おじい様)が大切にしていた兜にも同じ紋様が付いていました。松江藩士の兜(当館蔵)

※()内は20名以上の団体料金
※高校・大学・専門学校に通う学生は学生証の提示で団体料金
※市民割引には運転免許証・マイナンバーカードなど、現住所が確認できるものの提示が必要

松江市東出雲町の意東^{いとう}では、古くから窯業^{ようぎょう}が盛んで、磁器^{しき}や煉瓦^{れんが}・瓦などの生産が行われてきました。その中に、松江藩の殖産政策の重要な産業の一つとして生まれた「意東焼」と呼ばれる磁器があります。意東焼は、意宇郡下意東村（現、東出雲町下意東）で藩窯として開いた窯で製作された磁器のことで、大皿・徳利^{とくり}・猪口^{ちぐち}・花器をはじめとした日常雑器が多く伝わっています。意東焼の歴史は、天保3年（1832）ごろに、意宇郡下意東に他領から多くの職人を招き、磁器の生産を開始したことから始まります。操業期間については、7、8年と極めて短いものの、藩内の磁器の自給率を上げるために多くの意東焼が作られたといわれています。ただし、現存する意東焼は多くはなく、その希少性により出雲地域では大事に保管されています。この度、出雲地域に伝わる意東焼を一齐に展示し、その特徴について改めて見直すとともに、松江藩が磁器の製作に取り組んだ軌跡をたどります。

令和8年度
春季
企画展

意東焼
染付^{そめつけ}霊亀^{れいき}図^ず朝顔^{あさがお}形^{がた}大鉢^{おおばち}
島根県立古代出雲歴史博物館蔵



内側に、大胆^{たいだん}に霊亀^{れいき}を描き、外側には青地に菊を規則的に並べて描いた大きい鉢。高台の内側に「天保年製 雲陽長歳山 月漢画」の銘がある。意東焼を代表する作品。



意東焼

染付^{そめつけ}猿廻^{さるまわし}図^ず筆筒^{ふでづつ}

出雲玉作資料館蔵

側面に猿廻しの様子を描いた筆筒。底裏に天保4年（1833）の銘がある。意東焼の中でも丁寧に製作された作品には、高台裏に銘が記されており、意東の地をあらわす「雲陽長歳山」と製作した工人の名前が記される。



意東焼

—松江で作られた幻の磁器—

令和8年(2026)
4/24^金 >>>
6/14^日

会場：松江歴史館 企画展示室

主催：松江歴史館

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）
開館時間：9:00～17:00（観覧受付は16:30まで）
観覧料：大人680円（540円）、松江市民340円
小・中学生340円（270円）、松江市民170円
基本展示とのセット券の料金は大人1,030円（820円）、小・中学生520円（420円）

※（ ）内は20名以上の団体料金
※高校・大学・専門学校に通う学生は学生証の提示で団体料金
※市民割引には運転免許証・マイナンバーカードなど、現住所が確認できるものの提示が必要

スポット
展示

徳川家康の食べ残し — 家老朝日家の木椀 —

徳川家康が武田家と戦った際、松江藩家老となる朝日家初代の袴田千助は敵方に忍び寄り、敵将の西郷伊予を鉄砲で討ち取りました。そのことを朝食中の徳川家康に報告したところ、家康は大いに喜び、ちょうど朝日が差す時分であったため「朝日」の姓と手にしていた木椀を与えたと伝わります。木椀にはご飯粒が残っていたのでしょう。朝日家では木椀とともにご飯粒も拝領物として保管し、希望する藩主が見たという記録があります。昨年寄贈を受けた徳川家康から拝領した木椀を初公開します。

期間：3月31日（火）▶ 6月28日（日）

ミニ展示

士族の家計簿 — 三浦家の台所事情 —



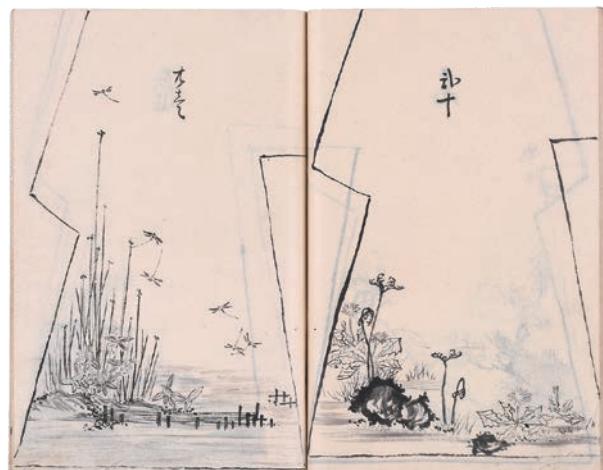
三浦周行家文書（当館蔵）

松江には、江戸時代後期に御徒から新番組士に昇格した三浦家という武士の家がありました。明治維新によって代々仕えた松江藩がなくなると、三浦家の当主正祐は島根県に勤め、家計を支えるようになります。武士であることによって得られた俸禄を失い、困窮する士族もあらわれる中、三浦正祐は長男の周行を東京の帝国大学に進学させることができました。ところが周行の大学卒業直後に父正祐は亡くなってしまいます。そんな松江の士族三浦家の生活を、家計簿からのぞいてみましょう。

期間：5月26日（火）▶ 7月26日（日）

これからの スポット展示 ミニ展示

新収蔵品や最新の研究にまつわる資料、四季折々の作品などを、館内の小さなスペースで特集展示します。令和8年度は、スポット展示を4回、ミニ展示を6回開催します。



着物の見本帳（個人蔵、当館寄託）

スポット
展示

カタログから見る 武家の着物・かんざし

江戸時代、身分によって人々が着用する着物は違いがありました。武家の女性が日常に着るものは現代の着物の原型となる小袖とよばれるものでした。あまり動き回らないため、身丈が長くとられ裾を引きずるようにしていました。松江藩家老の三谷家の史料には、着物や簪を注文するためのカタログや指示書などがあります。着物の見本を見ると、裾に季節ごとの花々など美しい景色や模様が描かれているものが多く見られます。これは、江戸時代後期に多く見られる傾向です。

本展示では、着物の見本帳や指示書の紹介を通して、江戸時代後期の武家の女性の好みを探ってみたいと思います。

期間：6月30日（火）▶ 9月27日（日）

何時、誰が著したか分からないが、人から人へ書き写されて伝わった逸話集。松江藩松平家初代藩主直政から六代宗衍の時代までが取り扱われ、後、八代藩主斉恒までが追記された。収録された約二百話にも及ぶ記事は、虚実混交の憶みがあるとはいえ、よく吟味して読むと、松江藩の歴史の深叢に分け入ることができる。

雲陽秘事記

あらかると



松江歴史館 名誉館長
藤岡 大拙

第9回

村に住み着くよそ者 一二題

その一

松江松平家三代藩主綱近の時代の話

地方役人に小嶋弥太郎という武士がいた。神門郡の或る村に代官として出郷することになった。そのころ、猿引き十太夫という芸人夫婦が、十王猿という大猿をつかつて猿廻しをしていた。十太夫夫婦は剣術も達者だったが、猿も見よう見まねで剣術を覚えていた。

そんなわけで、腕に少々覚えのある夫婦は、その村に住みついて、我儘の振る舞いが多く、村人たちは扱いあぐねて困っていた。そこへ弥太郎がやってきたので、村人たちはこもごも十太夫夫婦の所行を弥太郎に訴えた。

「憎き十太夫夫婦の所行かな」と、早速十太夫を呼びつけた。十太夫は何の恐れることもなくやってきた。

「その方は何故此処にやってきて、狼藉をはたらくのか。早々に立ち退くべし。さもなくば、手打ちにせん」

十太夫は恐れることもなく、「討て

るなら討って見よ」と叫んで斬りかかる。腕は弥太郎より勝っていたので、弥太郎は柴の垣根に追い詰められ、尻もちをついた。「えたりや、おう！」とばかり切りつけんとするところを、下から斬り上げて、辛うじて十太夫を斃した。報告を受けた藩庁では、代官が直接手を出して、悪者を成敗するのは違法だとして、弥太郎に百日の閉門を命じた。

どうすればよかったか。それは、警察業務を担当する、弥太郎より下位の者が成敗すべきであった、というのである。

その二

六代藩主松平宗衍のころの話

野間三弥という武士がいた。ちよつとした不始末で、津田村の辻堂で塾居を命じられた。そのころ津田村に、六十六部(以下六部と略称する)の回

国行者が、何故か久しく逗留していた。

六部は乱暴者で、百姓をいじめ女性たちに暴力を振るうのだった。困った村人たちは、現状を三弥に訴えた。三弥は六部を呼び、早々に立ち退くべしと忠告したが、却って荒々しく反論した。仕方なく傍らにあった槍をもって、金剛杖で討ってかかる六部を成敗した。

二つの事件をみるに、ともに幕藩体制下の流動性のほとんどない、閉鎖的な村落にあって、他国から入り込んで、乱暴狼藉をやるという、考えられないようなことが、現実起こっていたのである。

さらに、六部という敬虔な回国行者のなかに、例外的であろうが、村落の平和を乱すような者もいたというのは驚きである。なかなか馴染んでくれない出雲人に業をにやし、つい暴力的になったのであろうか。

松江 おもしろ談義

ダイジェスト



日露出征兵



伏龍兵

松江歴史館では、2か月に1回、異なるテーマを設けて、松江の歴史やゆかりの美術のお話をする「松江おもしろ談義」を開催しています。今回は令和7年8月の講演の内容をダイジェストでお届けします。

茶色い戦争ありました

— 軍事郵便と鹿島の戦争 —

松江市立鹿島歴史民俗資料館では、令和5年(2023)10月22日から翌6年1月14日まで、「茶色い戦争ありました—軍事郵便と鹿島の戦争」と題する展覧会をおこないました。

個人的なことから書き始めることをお許しください。数年前、妻が実家から古い手紙の束を持ち帰りました。聞けば日露戦争で戦死した縁者「喜一さん」の書簡という。手伝って読み進めると、陸軍に召集、浜田21連隊で訓練後、日露戦争で戦死するまでの79通の書簡と「日記簿」と書ききのある自習ノートからなるものでした。

一人の青年が入隊し、厳しい3年間の訓練の末、満期除隊。しかし帰郷後わずか数か月で日露戦争が勃発、予備役兵として動員されます。書簡には、兄あてに浜田21連隊の隊内の様子、事件、感想、戦地の事情などがつづられ、自習ノートからは、軍が命令に絶対服従する兵士を育てる意図が明瞭に読み取れます。明治の青年が、日本の近代国家をめざす巨大な歯車に巻きこまれ、奉天陥落の4日前に戦死した、短いが懸命な姿が見えてきたのです。

そのころちょうど、ロシアのウク

ライナ侵攻が始まり、21世紀にもなつて軍事力で領土を拡張しようという戦争に慄然とし、急遽展覧会を企画。展覧会前にはイスラエル・ガザの戦闘まで重なることとなりました。

私が鹿島町で勤務を始めた昭和50年代後半は、職場や発掘調査の現場にはまだ大戦の従軍者が何人もいました。いつも背筋がピンとした人は元軍曹、ディーゼル発電機の整備が得意な人は徴用船の機関士でした。『戦友の譜—鹿島町・島根町編』というアジア・太平洋戦争出征者の本に付箋を貼っていくと、知人やその家族で付箋だらけになり、「根こそぎ動員」を実感し、これらの方々から遺品や軍事郵便など関連資料をお借りしました。

戦地から遠い鹿島町ですが、無関係ではなく、江角防空監視哨の踏査では、本土決戦に向けて設備の補強も判明。鹿島町の小笹寛さんの自伝では、末期の海軍予科練に志願し、訓練の挙句、大社基地の造営、長崎県川棚基地での特攻兵器「伏龍」の訓練。人命を全く無視した特攻兵器です。粗末な潜水具の兵に爆雷付きの竿を持たせ、連合軍の上陸用舟艇を海底から爆破しようとするもの。

一人が成功すれば、周りは全員大死する兵器です。実戦では未使用ですが、訓練中何人も死亡しています。これもジオラマ形式で展示しました。

門田喜一さんの送った日露戦地の絵葉書には、各国の観戦武官がいたためか説明に英語も併記されています。少なくとも国際法の中で戦争をした日露戦争と、さきの大戦末期の伏龍兵の姿は恐ろしい対比をなしました。アジア・太平洋戦争での死者は数百万人といわれます。兵士として亡くなった人、戦場となつて巻き込まれた市民。戦争は決して繰り返してはならないとの思いを改めて強くした次第です。展覧会タイトル「茶色い戦争ありました」は中原中也の詩「サーカス」の一節。今後も「ありました」と過去形で語りたいとの願いです。

この展覧会に関連しての資料提供者のうち何人かはすでに鬼籍に入られました。今後、戦争を間接的にでも語る資料、戦争遺跡の重要性は大きくなるに違いありません。こうした資料の散逸を防ぐことも今後の博物館活動の重要な側面になるものと考えています。

(松江市立鹿島歴史民俗資料館館長 赤澤秀則)

ひと足のばして 歴史スポット めぐり



アクセス >>> 松江歴史館敷地内

朝日家長屋

朝日家は、松江藩主松平家の家老を勤める3800こくど石取の家でした。二階建て瓦葺かわらぶきのこの建物は、朝日家の屋敷の一部で、家来と使用人が住んでいました。明治時代以降は住居として使われ続け、その間何度か間取りが変えられましたが、松江歴史館の建設に併せて天保期(1830～43)の姿に復原しました。現在では、松江市内に唯一残る家老屋敷の長屋として、松江市指定文化財に指定されています。

INFORMATION
松江歴史館からの
お知らせ



おかげさまで 開館15周年!

松江歴史館は平成23年(2011)3月19日に開館してから、令和8年(2026)で15周年を迎えます。これを記念して、3月には様々なイベントを開催します。ぜひお越しください!

お化け屋敷「怪談長屋」 **有料**

3月20日(金・祝)～22日(日)、
28日(土)、29日(日) 各日10時～15時半

松江歴史館・松江ホーランエンヤ
伝承館 無料開放

3月22日(日)

詳しくは松江歴史館ホームページをご覧ください
(QRコードよりアクセスできます)



他にも、こども落語、屋台出店などを予定しています。

わがどこに 何があーかね？

城北編



出雲弁で「わたしたちの地域に何があるの?」という意味

松江歴史館は、松江市域ゆかりの歴史資料や美術作品を多数収蔵しています。
このシリーズでは、収蔵資料や近年調査した資料などを地域ごとに紹介します。



塩見縄手

小泉八雲夫妻が通った道 塩見縄手

令和7年(2025)冬、松江城周辺は連続テレビ小説の影響を受けてでしょう、全国からの観光客であふれています。特に松江城北側の堀をはさんだ通り「塩見縄手」を歩き、資料館や史跡を巡る方々が非常に多いようです。今回の「わがどこに何があーかね?」では、城北地区の塩見縄手を紹介します。

年(1987)には建設省「日本の道100選」に選ばれています。

この通りの名称である「塩見縄手」とは、現在「武家屋敷」として公開されている屋敷に住んでいた松江藩士塩見家に由来します。塩見家は江戸時代前期から宝暦5年(1755)まで武家屋敷に居住していました。初代塩見小兵衛は250石で松江藩松平家に仕官した後、一代で格式大名分、禄高1000石を給する上位の藩士となりました。このことにあやかり、「塩見縄手」と呼ぶようになったと伝わります。ただ、いつから塩見縄手と呼ぶようになったのかははっきりとしていません。

せん。江戸時代末期にあたる嘉永3年(1850)の絵図には「塩見縄手」と記されており、当時はそのように呼ばれていたのでしょうか。しかし、明治12年(1879)や昭和36年(1961)の地図に「城見縄手」と記されています。近代以降は城見縄手と呼ばれていましたが、伝統美観保存地区の指定に際して塩見縄手と統一しました。

この塩見縄手は朝の連続テレビ小説のオープニング映像にも取り上げられ、美しい松江の風景を全国に発信しています。皆さんもこの歴史ある小道を散策してください。

(主任学芸員 新庄正典)



松江市全図(昭和36年、当館蔵)



松江市街地図(明治12年、個人蔵)



松江城下絵図(嘉永3年、当館蔵)